

# サンホープ・益満社長

## 砂漠のイスラエルに学ぶ

農村ニューズ2018年

10月15日付け7面

益満ひろみ氏(株)サンホープ代表取締役社長兼日本イスラエル商工会議所副会頭のテーマは、「砂漠の農業大国イスラエルに学ぶハイテク農業」(自動化・省力化が日本の農業を変える)。

(株)サンホープは、50年近く前、益満ひろみ社長の祖父・故益満和幸氏が「世界の『水』を大切に使うために、水を必要とする環境へ最低限の水利用で、その効果を上げる商品・サービスを私達は提供します」を企業理念に、当時の最先端技術で



益満社長

生み出された、イスラエルの少量型マイクロスプリングラーやドリップを日本へ紹介したのが始まり。以来、その創業社長の意思を受けついで現社長が「私達が積み上げてきた『水の知識』をお客様へフィードバックし、お客様のビジネスに貢献することが、業界のリーダーとなった私達の役目だと認識しております」を経営理念に日本農業の発展に努力を続けている。

ると同時に、それを達成した卓越した換水技術、ノウハウなどを紹介した。

当日の講演で益満社長は、建国70年、面積が日本の四国と同程度、人口が800万人のイスラエル、しかも砂漠という苛酷な環境下でありながら、食糧自給率90%という実績が徹底した水管理から生まれたことによ

特に年間の平均降水量が30mm(東京は1500mm)という南部での食糧自給率が95%を達成している秘密が降水量を120%以上利用(徹底した再利用)していることに加え、浄水の淡水化によるものであることなどは、日本の水環境がいかに恵まれているかを考えさせられた。最後に益満社長は「人間の勝手ではな

く、作物が欲しい時に、ほしいだけ与える」という基本を大切に、「これからは優れた機器やノウハウを紹介していきたい」と述べた。

や肥料を与えるのではなく、作物が欲しい時に、ほしいだけ与える」という基本を大切に、「これからは優れた機器やノウハウを紹介していきたい」と述べた。